

特殊教育の現状と展望

足利市小・中教研特殊教育部会

推進委員 大橋小山 田悠紀子 山辺小黒 岩悦子

毛野中會澤 美佐江 第三中高橋 良男

この報告は、平成6年6月に行った「特殊教育に関するアンケート」をもとに、児童・生徒の実態と教師の抱える悩みや問題点にそってまとめた。指導上配慮を必要とする児童生徒にどのように対応し、どのような方法を考えたら良いかを探るため、特殊教育研究部の今までの教育的資産を活用しながら、教師と共に考えていくための提案としたい。

1. 調査概要

(1) 調査の目的

学級で、学業不振や問題行動など指導上配慮を必要とすると思われる児童・生徒の状況やそれに伴う教師の悩みを調査し、特殊教育の視点から問題の解消を図るために基礎資料とする。

(2) 調査の対象 足利市内小・中学校全クラス及び全担任

(3) 調査の方法 アンケートによる回答調査

(4) 調査の時期 平成6年6月10日から6月30日

(5) 調査項目 別紙アンケート用紙参照

(6) 回答率

学校回答率 35／38 9.2%

学級・担任回答率 464／525 8.8%

2. 「特殊教育に関するアンケート」の結果と考察

(1) アンケート1の質問に該当する児童・生徒数

* 調査人数・・・回答学級在籍人数の合計

* 該当人数・・・回答該当人数の合計

ア 小 学 校

設置校（特殊学級）	設置校（通常の学級）	未設置校
該当人数 39 調査人数 44 8.6%	該当人数 355 調査人数 6845 5.2%	該当人数 192 調査人数 2179 8.8%
(全體) 該当人数 586 調査人数 9068 6.5%	(通常の学級) 該当人数 547 調査人数 9024 6.1%	

イ 中 学 校

設置校（特殊学級）	設置校（通常の学級）	未設置校
該当人数 26 調査人数 27 96.2%	該当人数 89 調査人数 2530 3.5%	該当人数 67 調査人数 1444 4.6%
(全 体)	(通常の学級)	
該当人数 182 調査人数 4001 4.5%	該当人数 156 調査人数 3974 3.9%	

ウ 考 察

障害を持つ児童・生徒数についての推定はできないが、通常学級において指導上配慮を必要とする児童生徒数は、小学校(6.1%)中学校(3.9%)とのデータが表れた。これは、1クラスに2~3名の該当ということであり、担当教師が指導する上で、困難が予想される。

(2) アンケート1に対する回答

(指導上、問題をもっている児童・生徒についての様子)

ア 学習面

総件数 1,171

項目	小学校件数	中学校件数	計
計算や漢字……	62	29	91
一斉授業で……	175	79	254
学習内容の……	177	86	263
簡単な指示……	41	24	65
ひらがな……	87	20	107
絵や図が稚……	120	13	133
くり上がり……	61	25	86
かけ算九九……	95	27	122
その 他			

学習意欲がなく、集中できない。(9)

言葉が話せない。(4)

学習が理解できない。(3)

数の仕組みが理解できない。(3)

うまく会話ができない。(3)

学習の定着が低い。(2)

学習意欲はあるが、学習不振だ。(2)

漢字や計算の学習も対応できない。(2)

個人指導をしていると、泣き出してしまう。(2)

話の内容をじっくり聞き取らない。(2)

時間で行動できず、いつも1人で遅れてしまう。(2)

提出物をきちんと出さない。(2)

機械運動の能力が低く、取り組もうとしない。(2)

リコーダーやピアニカができない。(2)

外国人子女のため、日本語が理解できない。(2)

なぞり書きができない。(1)

手拍子が打てない。(1)

ぬり絵で適切な色が使えず、線から色がはみ出す。(1)

体育時の集団行動で遅れ気味である。(1)

作業学習に意欲や熱意を示さない。(1)

イ 生活・行動面

総件数 657

項目	小学校件数	中学校件数	計
ほとんど話……	51	35	86
意味もなく……	29	10	39
いつもきょ……	90	37	127
教室を飛び……	20	11	31
失禁をした……	10	2	12
奇声を発す……	37	6	43
こだわりが……	34	15	49
身の回りの……	99	24	123
感情の起伏……	65	30	95
その他			
基本的生活習慣（身支度、衣服の着脱、忘れ物など）が身についていない。	(6)		
交友関係が狭く、限られた友達となら遊ぶ。	(6)		
かっと怒りやすく他人に暴力をふるう。	(6)		
友達と遊ばず、一人でいることが多い。	(4)		
動作が緩慢で、集団行動がとれない。	(3)		
家庭生活が不規則で、朝食ぬきや寝不足が多い。	(3)		
じぶんの思っていることをうまくいえない。	(2)		
他への依存が強く、自分から進んでやることがない。	(2)		
未経験のことには「できない」と言いはって、やろうとしない。	(2)		
何の理由もなく、友達に突発的に手をあげる。	(2)		
夜尿がある。	(2)		
不登校。	(2)		
家庭的に問題をかかえ、遅刻や欠席が目立つ。	(2)		
物事への取組みが遅くぼうっとしていることが多い。	(1)		
集団生活に適応できず、常に声かけが必要である。	(1)		
自分の世界に入って、ぼうっとしていることがある。	(1)		
明らかに自分より弱い子をいじめる。	(1)		
感情に波がある。	(1)		
善悪の判断や場に応じた態度が十分身についていない。	(1)		
廊下であった人にあたりかまわず大声で話しかける。	(1)		
物事をはじめてもすぐあきてしまう。	(1)		
身体的な障害（ペースメーカー）がある。	(1)		
てんかんの発作と身体的成长の遅れから、集団生活に問題が生ずる。	(1)		
病弱なところもあるが、欠席が特に多い。	(1)		

ウ 考 察

(ア) 学習面

- 指導上何らかの配慮を要すると思われる児童・生徒 240名
(240/1171 20.5%)
 - ・ひらがな、かたかなの表記が不完全である。(107)
 - ・絵や図が稚拙である。(133)
- 学習の定着に問題を感じている児童・生徒 517名
(517/1171 44.2%)
 - ・一斉指導では対応できないので、個別指導が必要である。(254)
 - ・学習内容の定着がかなり低い。(263)
- 自由記述から主なものを挙げると、
 - ・学習意欲がなく、集中できない。
 - ・個人指導をしていると泣き出してしまう。
 - などがあげられる。

学習面において、指導上配慮を要すると思われる児童・生徒が、通常学級のなかで相当数在籍していることがわかる。この中には、言語面での未発達・数の認識がないなどの児童も見られ、特別な配慮を持つて指導する必要性を強く感じる。

このような実情に加えて、かなり多くの教師は学習での定着に対して問題を感じている。そのために個別指導の必要性をあげ、対応に苦慮している様子もうかがえる。意欲はあるが、学習におくれがちな児童・生徒、学習意欲の乏しい児童・生徒、情緒的な問題を持つ児童・生徒が在籍している状況から考えると、学習内容の定着については、一層の努力を必要とすることがうかがえる。特殊教育研究部では、この面に関しての情報提供も含めて積極的に協力していく必要を感じる。

また、回答の中に「学習意欲がなく、集中できない」児童・生徒をあげている教師が9名いるが、環境に合わない児童・生徒の姿が浮かび上がる。情緒的な面や個人的な側面も考えられるが、学習面での適応を考える上では大きな課題である。早い時期に該当児童・生徒のその原因を捉え、教育相談等の方法で指導する必要がある。

(イ) 生活・行動面

- 何らかの障害を持つとは推定が難しいが、回答率が高いもの。
 - ・いつもきょろきょろしたり、落ち着きがない。 127名
(127/657 19.3%)
 - ・身の回りの整理・整頓などが、極めて悪い。 123名
(123/657 18.7%)
- 何らかの障害を持つと思われる児童・生徒 49名
(49/657 7.5%)
 - ・こだわりが特に強い。(49)

○ その他、問題を感じる児童・生徒 213名
(213/657 32.4%)

- ・ほとんど話さず、おとなしい。(86)
- ・感情の起伏が激しい。(95)
- ・友人と遊ばない。(21)
- ・かっとしたり、暴力をふるう。(11)

生活・行動面では、『落ち着きがない』『整理整頓が・・・』に対する回答が多かった。これは、知的障害のある児童・生徒にはよく表れる行動であるが、だからといって障害を推定することはできない。現状として、このような児童・生徒が多いということは、学習指導にも大きな困難が予想される。

こだわりが特に強い児童・生徒については心理的な不安定さが考えられるが、実態を正確につかみながら、特別な配慮をする必要を感じる。

生活・行動面で、特に気になることでは『その他問題を感じる児童・生徒』にあげたように、感情の起伏が大きい、あるいは逆に極めて少ない児童・生徒が、相当数いることである。対人関係に溝ができたり、集団生活になじめなかったり、あるいは逆に他人に暴力をふるったり、といった児童・生徒のストレスに起因するものなのか、他の問題なのかを見極めながら、教育相談等を通して今後とも一層努力する必要があることを感じる。

(3) アンケート2での要望

(問題を感じている児童・生徒のために、特殊教育研究部にどのような対応を望むか)

() は要望数

ア 今後、特殊教育研究部で対応可能な要望

- 特殊学級への通級の可能性 (12)
- 入級指導の進め方 (4)
- 早期発見のための手立て (4)
- 特殊教育に対する偏見をなくす手立て (2)
- 通常学級との交流教育 (2)
- LD児への対応 (2)
- 就学指導の方法 (1)
- 教材や機器の情報提供 (45)
- 指導上の悩みなどの相談 (44)
- 問題を持つ児童に対する指導方法 (36)
- 個別指導のための資料提供 (22)
- 家庭との連携をすすめる手立て (13)
- 情報交換 (2)
- 授業風景、指導・相談の実際をビデオで情報提供 (1)
- 一斉授業の中の個別指導のあり方 (1)
- 特殊学級の現状について情報提供 (1)
- パソコンソフトの開発 (1)

イ その他の要望

- 個別指導ができるゆとりの確保 (24)
- 特殊学級の定員数を減少させる (6)
- 担任の複数化（ティームティーチング）の確立 (5)
- 学習に遅れをもつ子への教育相談の充実 (4)
- 事例研究をしたい (4)
- 促進学級の設置 (3)
- 現職教育での講話 (2)
- 専門家によるカウンセリングや相談 (2)
- 外国人子女への教材提供 (2)
- 教科担任間の連携をどうしたらよいか (2)
- 学校間の協力態勢作り (2)
- 研修の場の設定 (2)
- 特殊学級が1人でも開設できること (1)
- 養護学校などとの交流教育 (1)
- 各校に特殊学級を設ける (1)
- 不登校児に対する指導 (1)

3. 展望（今後の特殊教育推進に対する提案）

「特殊教育に関するアンケート」では、学習面において、指導上配慮を要すると思われる児童・生徒が相当数いること、教師は学習の定着に一層努力しなければならないこと、また生活・行動面でも、学習指導上で困難を感じている児童・生徒の実態が見られた。

特殊教育が今後とも教育現場でその役割を十分担えるよう、これらの事情にたって具体的に活動できることが特殊教育研究部のひとつの役割となると考えている。

そこで、これらに対する方策として次のことを提案し、その実現に努めたい。

(1) 特殊教育推進に対する提案

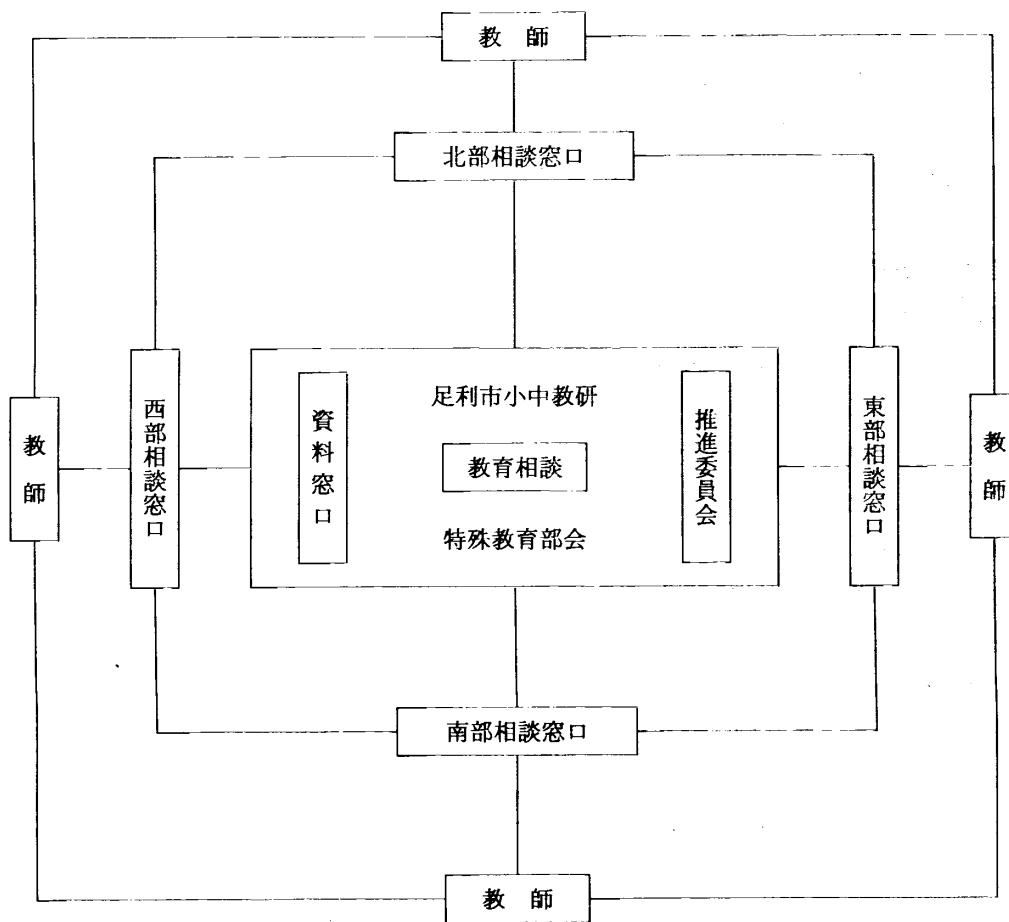
ア 特殊教育ネットワークの設立（図1）

教師間で指導上の悩みの相談や指導法について、気軽に利用できるネットワークを設立する。

イ ドリル学習や指導のための教具などの資料窓口を設立する。（図1）

ウ 特殊教育推進委員会（小中教研特殊教育部会）の継続

各種の問題について、その解決のための計画や活動に対する運営の一部を分担したり、調整したりする。



* 相談窓口担当教師・・・特殊学級担任、特殊学級経験教師等

(図1) 特殊教育ネットワーク

(2) 予想される特殊教育研究テーマ案

教師の要望をもとに、予想される今後の研究テーマを考えた。

- ～に問題を持つ児童・生徒の指導は、どのようにしたらよいか
- 家庭との連携をどのように取ればいいか
- LD児に対する指導は、どのようにしたらよいか
- 一斉授業の中でどのように個別指導をしたらよいか
個別指導の場をどう確保したらよいか
- パソコンを利用した学習指導をどう工夫したらよいか
- チームティーチングを生かした学習指導をどのようにしたらよいか
- 通級指導をどのように進めたらよいか
- 交流教育をどのように進めたらよいか

特殊教育に関するアンケート

このアンケートは、特殊教育の立場で小中学校の児童・生徒のかかえている問題をとらえ、今後の特殊教育に資するために実施することになりました。なお、学級担任の先生方の生の声を参考にしながらすすめていきたいと考えておりますので、なるべく多くの先生方の回答をお寄せいただきたいと思います。

以下の項目にお答え下さい。

(小 中) 学校 () 学年
(通常 特殊) 学級 クラス在籍数 () 名
1 の質問に該当する児童・生徒数 () 名

1. 指導上、問題をもっている児童・生徒についてその様子をお聞かせ下さい。
(に丸じるしをつけて下さい。いくつ選んでも結構です。)

(学習面)

- ・計算や漢字以外の学習に対応できない。
- ・一斉授業では対応できないので、個別指導が必要である。
- ・学習内容の定着がかなり低い。
- ・簡単な指示でも理解できない。
- ・ひらがな・かたかなの表記が不完全である。
- ・絵や図が稚拙である。
- ・くり上がり・くり下がりの計算ができない。
- ・かけ算九九が不完全である。

・その他

- ・意味もなく、しゃべり続けることがある。
- ・いつもきょろきょろしたり、落ち着きがない。
- ・教室を飛び出してしまうことがある。
- ・失禁をしたり、トイレでの始末ができない。
- ・奇声を発することがある。
- ・こだわりが特に強い。
- ・身の回りの整理・整頓などが極めて悪い。
- ・感情の起伏が激しい。
- ・その他

2. 問題を感じている児童・生徒のために、特殊教育研究部にどのような対応を望みますか。(自由記述)
- (例) 指導に適した機器や教材の情報・提供
指導上の悩みなどの相談

(生活・行動面)
・ほとんど話さず、おとなしい。